

## セシウムさん

8月4日（木）午前、東海テレビの情報番組「ぴーかんテレビ」内で、岩手県産米のプレゼント当選者を「汚染されたお米 セシウムさん」などとするテロップを誤って放送するという事態が発生しました。

東海テレビによると、この画面は、スタッフがリハーサル用に作ったもので、操作ミスで放送されたものと説明しています。

今回の問題について、東海テレビは「当選者をお知らせする内容に不適切な記述が誤って送出されました。大変常識を欠いた不謹慎な内容が画面に出てしまい、視聴者の皆様に不快な思いを与えたことに対し、深くお詫び申し上げます」とのコメントを出していますが、勿論、この放送に対して、岩手県はじめ多くの方から抗議が寄せられ、結局、東海テレビは、関係者を処分し、番組を打ち切る事態となっています。

今回の一番の問題は、不適切な文言が誤って放送されたことにあるのではなく、いくらリハーサル用とはいえ、「セシウムさん」というような不適切な文言を作成して恥じない精神にあります。

「人の不幸は蜜の味」という言葉がありますが、福島第一原発事故によって大変な被害が発生し、また風評によって被害を被っている方々の気持ちを全く顧慮しない、底の浅さと底意地の悪さを感じます。

今回の「セシウムさん」という言葉を耳にしたとき、1985年6月2日に発生した日本航空の東京発大阪行き123便が、御巣鷹の尾根に墜落した事故のことを思い出します。

123便は、伊豆半島南部東岸に差しかかるころ、操縦に重大な影響を及ぼす異常事態が発生し、右旋回して羽田空港に引き返そうとした。しかし、異常発生の数分後には、方向舵などの操縦機能のほとんどを失い、激しく横揺れしながら首を振る「ダッチロール」が発生、機長等は左右4基のエンジン出力を操作しながら必死に機体姿勢の安定を図ろうとしましたが、ついに最悪の事態

となりました。

そして、この事故直後のある会議の席で、議論が行きつ戻りつまとまらなくなったときに、出席者の一人が「会議がダッチロールしている」と半ば冗談のようにいい、他の参加者からも笑いが起こりました。事故直後にもかかわらず、「ダッチロール」という言葉が軽口のように扱われたことに、私は、ボイスレコーダーに残された操縦室内の生々しいやり取りと重ね合わせ、不快な思いを禁じ得ませんでした。

言霊という言葉があるように、言葉には力が宿っています。使う者によって、使い方によって、その言葉は光彩を放ちもするし、毒を振りまくことにもなります。それだけに、言葉を扱うものは、言葉の持つ力に敏感でなければならないのだと、改めて感じているところです。（塾頭 吉田 洋一）